

GR Garage 浦和美園
GR TOYOTA GAZOO Racing GR86/BRZ Cup
プロフェッショナルシリーズ第4戦
クラブマンシリーズ第4戦
7月12日(土)～13日(日)
十勝スピードウェイ(北海道更別村)

GR Garage 浦和美園 CAMP レポート

プロフェッショナルシリーズにはGBドライバーの吉田広樹選手、クラブマンシリーズにはアマチュアドライバーの大森和也選手が出場。エントリー台数はそれぞれ 22 台、21 台です。吉田選手は木曜日、大森選手は金曜日から走行開始。ドライブで行われた金曜日の専有走行では、吉田選手が 2 位、大森選手は 3 位の好タイムをマークし、順調な仕上がります。

土曜日(予選日)の天候は晴れ。プロフェッショナルシリーズの予選は 12 時 35 分から行われました。吉田選手は残り 3 分という狙いすましたタイミングでコースイン。2 周目に 1 分 31 秒 939 をマークし、予選 4 位の好位置を獲得しました。クラブマンシリーズの予選はプロフェッショナルシリーズの直前、12 時 05 分から行われ、大森選手は予選開始の合図とともにコースイン。2 周目に 1 分 35 秒 309 をマークし、予選 2 位につけました。両選手ともにあとわずかでポールポジションというタイムで、乗れていることに間違いはありません。

日曜日(決勝日)の天候も晴れ。昨日よりもさらに気温は高く、夏の陽気です。プロフェッショナルシリーズの決勝(14 周)で順当なスタートをきった吉田選手は、4 位をキープして 1 周目を終了。コース上には飛散物を回収するためのセーフティカー(SC)が導入され、5 周目からレース再開となります。3 位は予選 2 位の井口卓人選手(88 号車)。井口選手は 2 位の堤優威選手(7 号車)と接近戦を演じており、吉田選手は約 1 秒差で井口選手を追いますが、レース終盤、堤選手と井口選手の 2 位争いが激化。残り 2 周時点で吉田選手も追いつき、3 台による 2 位争いが繰り広げられます。抜けないと言われる十勝では、順位の変動はないと思われましたが、最終コーナー立ち上がりで吉田選手が井口選手に並びかけ、コントロールライン手前で逆転。わずか 0.054 秒差で 3 位表彰台を獲得しました。

一方、クラブマンシリーズの決勝(14 周)では、2 番グリッドの大森選手はスタートで出遅れ。2 台に抜かれ、4 位で 1 コーナーへ進入します。大森選手の劣勢は続き、次のコーナーまでにさらにポジションダウン。5 位で 1 周目を終えます。先行するのは予選 4 位の Amer Harris 選手(339 号車)。大森選手は早い段階で前に出たいところですが、仕掛けることができず、逆に予選 7 位の竹村寛成選手(990 号車)の接近を許します。自分の走りができない大森選手はポジションキープに徹し、5 位チェッカー。しかし、レース後、スタート直後の大森選手のディフェンスが危険な行為と判定され、10 秒加算のペナルティが科されました。大森選手の正式結果は 9 位。ポイントを獲得したものの、悔しさの残る結果となりました。

GR86/BRZ Cup プロフェッショナルシリーズ
#160 GRG 浦和美園 IDI BS GR86

吉田広樹選手 決勝 3 位

予選 4 位(1 分 31 秒 939)

GR86/BRZ Cup クラブマンシリーズ
#522 GR Garage 浦和美園 CAMP IDI GR86

大森和也選手 決勝 9 位

予選 2 位(1 分 35 秒 309)



DRIVERS VOICE/MECHANIC VOICE

GR86/BRZ Cup プロフェッショナルシリーズ

吉田広樹選手

井口選手が前の選手と戦っていました。自分はそのから1秒ぐらい離されていたのですが、追いつくことができました。仕掛けたかったのですが、なかなか隙がないと思っていました。ただ、最終周の最終コーナーを立ち上がった時に、井口選手の加速が伸びず、自分もうまく立ち上がることができ、横に入ったらコントロールラインまでに伸び、3位になりました。チームが頑張ってくれたので、最後まであきらめられないと思っていました。表彰台に上がれてほっとしています。今回は走り出しからずっと調子が良かったので、後半戦では表彰台はもちろん、優勝争いができればと思います。

GR86/BRZ Cup クラブマンシリーズ

大森和也選手

スタートがすべてでした。予選1位の選手を抜いて、逃げ切る作戦を思い描いていたのですが、気持ちが高ぶってエンジンの回転数が高い状態でクラッチをつないでしまいました。それでホイールスピンが多くなり、気づいたらイン側に Amer 選手がいて、インを閉めたのがペナルティの判定になりました。レースの中盤までは前の2台と同じぐらいのペースで走っていたのですが、後半ぐらいから6位の竹村選手が仕掛けてきそうな雰囲気があり、自分の走りができない状態が続きました。期待を持っていたのぞんだレースでしたが、勝つことばかりを意識してしまったのが敗因だと思います。

浦和美園支店・小林拓真（160号車担当）

初めてレースに参加しました。担当は吉田選手の160号車です。想像していたより過酷でしたが、それと同じぐらい楽しめました。今回すべてが順調に進み、問題が起きなかったのが、楽しいと思えたのだと思います。今回、デファレンシャルギアとミッションを現地で交換したのですが、やったことに対して結果が出るとやりがいを感じますね。1回1回の作業の確実性や、どこを締めて、どこを締めていないなど、作業の進捗に関するチーム内での情報共有は、日常での仕事でも大切だと感じました。



PARTNERS



有限会社アイ・ディ・アイ



株式会社カーグラス・JP



K-one



埼群スリーボンド株式会社



ティーズ・ワークス



株式会社デンソーソリューション



東京麒麟ビバレッジサービス株式会社

トヨタ モビリティパーツ株式会社

トヨタモビリティパーツ株式会社



株式会社ブリヂストン



株式会社ミノルインターナショナル



Mechanix Wear LLC



株式会社リキテック



レカロ株式会社

SPECIAL THANKS

